

第2章

利尻富士町の概況

第2章 利尻富士町の概況

第1節 自然条件・災害の概況

第1 位置及び面積

利尻富士町は、北海道の西北端稚内港より52kmの海をへだて、東経141度14分、北緯45度10分の日本海に浮かぶ離島利尻島の東部を占め、高峰利尻山(1,721m)の南西を背にして利尻町と接し、東北は利尻水道をはさんではるか天塩の山脈と相対し、北西10kmをへだてて礼文島と指呼の間にある。

面積	105.69Km ²
広ぼう	東西11.512km、 南北18.110km
海岸線の延長	40.0km



第2 地勢

地勢は狭長でやや傾斜して海に臨み、地質は火山岩に類して腐蝕質土及び粘土が交錯し、砂礫を混えて地味は概して肥沃とはいえない。

第3 気象

北海道の西北端に位置しているが、沿岸一帯を流れる対島暖流によって受ける影響が極めて大きく他の道内北部地方に比べて概して温暖で、夏季の最高気温は27度であるものの、最低で零下15度以下になることは極めて稀である。

第4 災害の概況

利尻富士町では過去の災害の記録から、主な災害の発生は、暴風雨(低気圧、台風等による土砂災害)による被害が最も多く、以下暴風雪、火災、雪害等がその主なものであり、地震災害については大きな被害は記録されていない。

地勢及び気象で見たように自然的環境が最北の離島ということから、本道とは若干異なる災害の様相を示しており、四季別にみた利尻富士町の気象災害の特性は次のとおりである。

(1)春の災害

冬期間の積雪が春先の高温や低気圧、前線等による風や雨によって融解が促進され、いわゆる融雪災害が起こる。発生する時期は、おおむね3月から5月まで続く。

この季節には、雨が降らなくても低気圧が接近すると暖かい南風が吹き込んで気温上昇が起こり雪崩等が発生しやすい。また、オホーツク海高気圧の影響を受け、冷たい東風が吹き曇天や霧雨の日が多くなり天候不順となる。

(2)夏の災害

6月には、降水日数が多くなり、雨量も多くなる。霧の発生は年間を通じて多くなる。

風速は年間を通じて最も強い。

(3)秋の災害

この時期は、移動性の高気圧と低気圧が次々と進み、また台風の北上時期となる。台風が本町に接近する頃は、この勢力が弱まっているのが普通であるが、時に勢力を維持して北海道へ接近し、本町を襲うこともある。雨量、降水日数とも年間を通じて最も多い季節であるため、集中豪雨による土砂災害の発生頻度が高くなる。

(4)冬の災害

北よりの季節風が多くほとんど毎日のように降雪をみる。日本海沿岸や太平洋に低気圧が来襲し、その中心気圧は970ヘクトパスカル以下に発達するものもあり、暴風雪による交通障害及び波浪による護岸、道路決壊等の災害が発生する場合がある。このため交通が途絶し、空、海航路の欠航が多くなる。

これらは、四季別にみた気象であるが、これに伴う災害あるいは本町特有の災害状況は次のとおりである。

第5 その他の災害

ア 流水災害

11月上旬ごろオホーツク海の北西部で結氷が始まり、次第に氷域が広がって流氷として南下する。大流氷帯が南下してオホーツク海沿岸に接岸し、1月から3月にかけてはオホーツク海沿岸に接岸し、風向きによっては利尻島周辺に押し寄せ、または接岸して船舶の航行を不能にすることもある。このため島民の交通、食料供給に多大な影響をもたらすほか、水産業施設、魚介類及び海藻類等に大きな被害を与える。

イ 雪 害

冬の降水は、気温が低いいためほとんど雪になる。近年は温暖化の影響により初雪も11月中旬頃であるが、雪質、寒冷な気温との関係もあって降雪が継続し、吹雪、なだれ、電線着雪等により交通、通信、産業等に甚大な被害をもたらす。すなわち、吹雪は船舶の遭難及び交通障害を続出させ、なだれを引き起こし車両通行を妨げ、なおかつ家屋の倒壊、埋没等を招来する。冬季には大雪の後の表層雪崩、春季には気温の上昇による全層なだれに注意が必要である。

ウ 暴風雨災害

暴風雨災害は、熱帯低気圧と台風によるものが多い。本町の暴風雨によ被害はそれほど多くはないが、暴風による家屋等の倒壊や大雨、集中豪雨による床上、床下浸水、河川氾濫による土砂等が海浜に流出し、水産資源に大きな影響を及ぼすこともある。

ウ 火 災

本町の火災は、10月から3月が多発期であり、冬期間の暖房設備等の使用がその主要原因とな

っており、寒冷地の特性を示している。

エ 海 難

北方特有の厳しい気象、海象等のため海難が発生し、尊い生命が失われている。本町の漁船は関係諸外国沿岸海域において厳しい規制のもとに漁場を狭められている現状に加え、利尻島沿岸にも一部外国漁船が出漁するなど、一段と漁業事情は悪化している。これに伴う小、中型船の沖合操業等無理な出漁と機械器具の発達、漁法の開発により新漁場を求めて進出することなどが予想され、海難の形態、分布は多様化する傾向にある。